

ハンガリー水球における育成世代教育に関する一考察：

「水球指導書」の一貫教育に着目して

菊池 雄大 (奈良教育大学)

1. 目的

本研究の目的はハンガリーにおける水球教育、特に初心者の子ども（8～18歳）が成人選手になるまでの育成世代をどのように教育しているのか、その特徴の一端を明らかにすることである。

2. 研究方法

ハンガリー国立青少年教育研究所（NUPI）発行の水球指導書等（主に以下に上げた2文献）に記載している教育方法に着目し、現地調査の結果をふまえて考察することとする。

1) 文献研究

- ・vizilabda portage tanterv (水球競技カリキュラム) (以下、「指導書」と略す)
- ・Módszertani segédkönyv a vízilabdázás kerektanterv és a helyi tantervek értelmezés (水球教育カリキュラムの方法論的参考書と地域カリキュラムの解釈) (以下、「参考書」と略す)

2) 現地調査

日時) 2023年8月13日から9月18日

場所) ハンガリーブダペスト市

調査方法) ゲレススポーツクラブ、水球チーム UVSE
参与観察、インタビュー調査 (ゲレススポーツクラブ監督ヤーノス・プレゼル氏)

3. 結果と考察

本研究では、ハンガリーにおける水球教育に関して、3つの特徴があることが明らかになった。

1) 一貫指導の重要性

低学年は楽しみながら基礎を学ぶ段階であると設定され、高学年では他競技への参加（特にラグビーなどの競争的な競技）が推奨されるなど一貫指導が重視されている。これらのことは原ら（2005）の研究による日本の水球教育の特徴と比較しても、ハンガリーの水球の特徴だといえる。

2) 理想の身体と可視化

「参考書」によれば第二次成長期における女兒の身体変化を「能力が失われた」ゆえにそれを補填する必要があるという記述が見受けられる。そこには女兒の成長への理解というより、明確な水球選手像が反映されているといえる。また、そうした理想の身体は、指導者による完璧な動きの見本を通して教育されるべきだという考え方が見受けられた。

3) キャリア教育の特徴

ハンガリーの育成世代においては、「いかに学業と両立するか」について子ども主体で話し合わせることが「指導書」「参考書」に明記されている。また、16歳で「エリート選手/非エリート選手」にクラス分けされるが、非エリート選手であっても水球に関連するキャリアが具体的に示されていることも特徴である。

4. 結論

本研究においてハンガリーの水球教育の特徴は①低学年から高学年に向けて段階的な水球教育が行われていること②水球選手の理想像とその動きが選手・指導者ともに求められていること③水球と学業の両立について子ども自ら考えることを求め、育成世代後のキャリアについても具体的に提示していること、が明らかになった。

5. 主な参考文献

原朗・榎本至(2005)水球競技の長期一貫指導型競技者育成プログラム. 東京情報大学研究論集, 9(1):21-33.

Mladen, H. (2013) Where is today's Water Polo Heading? An Analysis of the Stages of Development of the Game of Water Polo. Naše more, 60(1-2):17-22.